

# 「地域福祉の現状と課題」

- 住み慣れた地域で安心して、自分らしく暮らすために

流通科学大学サービス産業学部

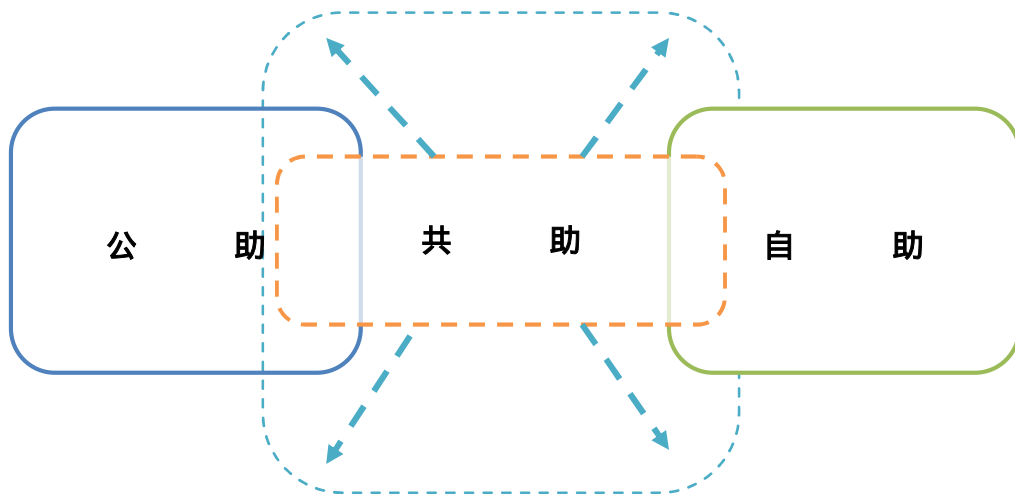
松澤賢治

## 1. いま、なぜ「地域」福祉なのか

- § 生活の様子から . . . . 価値観の多様化と関係の希薄化
- § 福祉課題の様相から . . . . 一般化、多問題化、犯罪化
- § 福祉理念の発展 . . . . 課題解決型から生活の継続へ
- § 社会制度や行政のあり方 . . . . 制度・サービスの発展と財政課題

課題解決のキーワード (よく使われる言葉...)

- § 自助 . . . . 「つながり」「絆」
- § 共助 . . . . 「生活の場での見守り」「助け合い」「当事者活動」
- § 公助 . . . . 「ネットワーク」「システム化」「異業種・多職種連携」



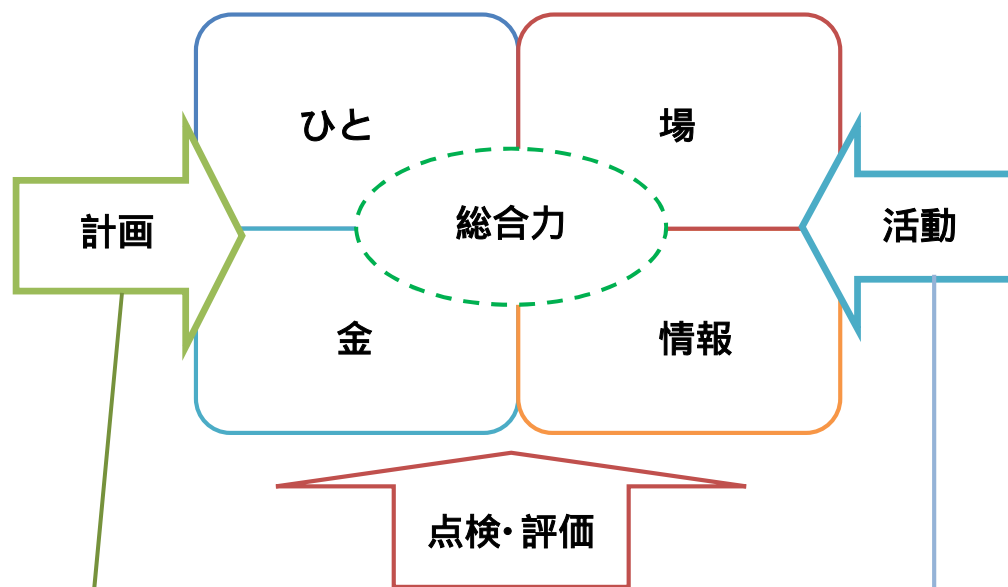
## 2. 地域福祉活動、見守り活動推進に必要なものは

§ 人：生活者、協力者（市民：課題によって立場、役割が変化する）  
専門職、専門家、自治体職員（消防・警察を含む）

§ 場：スペース、拠点、サロン、会議、専門機関、制度、法律、サービス

§ 金：資金、労力

§ 情報：発信、受信、伝達、確認、加工、リアルタイム、タイミング



## 3. 日常的に活動を進めるうえでの課題は

§ 計画は出来上がると“ホッと”する

活動計画の必要性

辛口の事業評価と点検

地域福祉の成果は見えにくく、測りにくい・・・

§ 役割分担、事業推進

新規とばかり考えず、既存の事業や活動を活かす

異業種が、意外に近しい関係にあり・・・

§ 共同作業・活動を重視する

横断的に、積極的逸脱を・・・。  
相手の言語を理解する努力を。  
相手に分る言語を使う努力を。

§ 成果の共有

4. 多様な活動推進プログラム

個人に焦点をあてた支援・・・点  
関係に焦点をあてた支援・・・線  
地域社会に焦点をあてた支援・・・面

§ 点

限界地域（集落や団地など）	高齢単身・夫婦等二人世帯の増加
生計	年金依存
身体	心身機能の減退、傷病、各種後遺症、 認知障害など

生活費支援、家事支援、介護支援、相談支援 + 保健サービス + 住宅改修・  
生活インフラの補修 + 伝達 + 一般行政サービス支援

複数の領域に及ぶ支援が必要不可欠      多分野横断的アプローチ



機軸となる分野・・・福祉分野

§ 線

近隣者とのつながりの維持・回復の支援	見守りネットワークの 構築
--------------------	------------------

いきいきサロン等の開設など	支援者の役割・ボランティア参加の あり方
---------------	-------------------------

## § 面

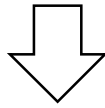
都市公営住宅、低家賃住宅密集地

vulnerable【バルネラブル】(脆弱な、攻撃を受けやすい)な条件を持つ人達の集住



社会的排除の対象となりやすい条件

地域全体としてはかなりの人口があっても、個々の生活を見ると「無縁社会化」が進行している。



### 参考資料 現代社会のさまざまな生活上の困難や障害

所得の格差と偏在、貧困、低所得、ニート、ワーキングプア、ネットカフェ難民、ホームレス、引きこもり  
育児不安、児童虐待、シングルペアレント、要介護、高齢者虐待、事故や傷病による障害、社会的不安、孤立と孤独、心の病、家庭内暴力  
外国籍住民に対する排除・ 災害被災、犯罪被害 ・ 環境の悪化

### 参考資料 生活支援の必要な福祉問題の広がりや深まり

- 地域の姿が変わっていく
- 「事件」化する福祉問題
- 都市・郡部の地域性、地域差の「消滅」 区別が無くなりつつある

関係性の喪失、希薄化

- 関係の希薄化……関係を深めたり、感動しあうことが少ない
- 関係の閉塞化……自分のことを語らず、周りとの関係を断つ
- 関係の間接化……物を媒介とした交渉や疑似体験化
- 関係の拡散化……全体と個との関係の機能不全、崩壊
- 関係のパラサイト化・他者への依存や過度な期待による相互性欠如

(月刊福祉 07.3 佐藤啓子氏 論文より)